

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

新潟県中央工業高校「新燃岳噴火災害支援募金」の取り組み

新潟県の県中央工業高校の吉田先生から「山岳部で新燃岳募金を卒業式にあわせて行いました。」というメールをいただきました。日本は地震・火山王国、小生も、先日も仲間と浅間山や御岳に登っていて、新燃岳で起こっている実際の噴火には及ぶべくもない



ものの、火口から噴出するガスを目の当たりにしました。もし新燃岳の今回の規模の噴火が一年早く起こっていたら、インターハイどころではなかったことは言うまでもありません。以下の本文は、吉田先生からご紹介いただいて同校山岳部OB会のHP (<http://mtob.sakura.ne.jp/>) から抜粋したものです。同じ山岳部の仲間の活動として紹介します。なお、この活動は、地元の情報発信サイト (<http://www.kenoh.com/index.html>) でも左記の写真とともに、大きく取り上げられています。(いずれのHPも公開承認済み)

平成23年3月1日

生徒・職員・保護者・OB 各位

発起人新潟県中央工業高等学校

山岳部生徒・顧問

「新燃岳噴火災害支援募金」のお願い

1 募金活動の趣旨

本年1月、大規模な噴火が起こった「新燃岳」のニュースは皆様の記憶にも新しいことと思います。今も住民の皆さんは、空振による窓ガラスの破損、噴石や降灰に苦しんでおられます。

この「新燃岳」は、私たち新潟県中央工業高等学校山岳部にとって、縁浅からぬ山なのです。昨年8月に、私たちは鹿児島県に行われた、全国高等学校総合体育大会登山大会(インターハイ)に参加しました。同大会は、鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島連山を会場に、全国から112チーム、560名の選手・監督が参加しました。実は「新燃岳」も、当初はコースに含まれており、登山をする予定でした。ところが、昨年3月以来の火山活動により、コース変更を余儀なくされたのです。そのような状況の中、地元の高校生や教職員、行政関係者、山岳関係者は準備段階から大変な苦労をされ、また、大会開催に当たっては細心の注意で運営をされ、そのおかげで、私たちは安全で、かつ、温かいもてなしのあるすばらしい大会を経験することができました。

また、私たち県中央工業高校は7年前の7・13水害で、全国から多くの支援を受けました。その時にいただいた温かい気持ちは、復興への大きな活力となりました。

つきましては、全国大会でいただいた御厚意に感謝し、またかつて寄せられた支援へ

の恩返しの意味も込め、今回、噴火の被害に遭われた皆様を支援するための募金活動を行うことにいたしました。

どうか募金の趣旨に賛同いただき、少しでも多くの義援金をお寄せいただきますようお願いいたします。

2 募金活動の期間

平成23年3月1日から3月18日まで。

3 募金活動の場所および活動者

本校校舎内で本校山岳部員が行う。

4 募金の使途

日本赤十字社宮崎県支部を通じ、災害救護活動に充当してもらう。

中嶋徹君の活躍・・・長野にはすごいヤツがいる

松本深志高校の2年生中嶋徹君。言わずと知れたボルダアの第一人者。その徹君が、3月5日発売の「ROCK&SNOW」の特集「5.15への道」で、安間佐千らとともに、大きく取り上げられている。彼は12月26日、2003年に平山ユージが初登した二子山のフラットマウンテン(5.14d/5.15a)の第2登を果たすというとてもないことをやってのけた。5.11も登れない小生には想像もつかない世界であるが、進化する徹君がこれからどんな登りをしてくれるのか、注目されるどころだ。その活躍の様子をと彼の生の声を是非店頭でご覧下さい。

野沢南高校・・・2月合宿

野沢南高校の塩川先生からの情報です。「大西先生、2月12日(土)、13日(日)と赤岳鉦泉にテント泊してきました。以下、生徒の感想です。」

赤岳鉦泉登山

高橋 一平

久しぶりの登山だったので体力的に心配があり、登り始めるとやはりきつかった。特に登りはメインザックの重さもあり、途中、何度か止まってしまった。前日から降っていた雪は思ったより積もって少なく、歩きやすかった。今回初めて外張りを使っただけのテント泊だったが、思ったほど寒くなく、快適だった。また、夕食の鍋はとてもおいしかった。

2日目は晴れ、展望台では素晴らしい景色を見ることができ、とても良かった。展望台からは下りで、行者小屋からは待ちに待ったスノーシューでの下山となった。場所によっては、雪が多すぎてスノーシューがうまく機能しない場所もあったが、雪の上を走ることができ、とても楽しかった。

全体的な感想としては、久しぶりにハードな運動をしたので疲れたが、とても楽しい登山だった。また、体力面や夜の冷え込みなどといった不安が事前に少しあったが、それほどひどくなく、最後の活動として充実したものだったと感じた。

コースタイム

2/12(土) 美濃戸口 11:45発 ~ 美濃戸山荘 13:06着13:40発 ~ 堰堤広場 14:40着
14:50発 ~ 赤岳鉦泉 15:55着

2/13(日) 赤岳鉦泉 9:34発 ~ 美濃戸中山展望台 10:12着 10:26発 ~ 行者小屋
10:40着 10:55発 ~ 美濃戸山荘 12:02着 12:36発 ~ 美濃戸口 13:08着